

きらめき

坂城町女性団体連絡会だより 第45号

発行 坂城町女性団体連絡会
編集 女団連だより編集委員会



活動報告

「女と男ふれあいさかき」

2024

山崎 美代子

11月9日(土)、文化センターにおいて、女と男ふれあいさかき2024が開催されました。

記念講演では講師に日本防災士会長野県支部長の大久保隆志さんをお招きし、「能登半島地震から考える私たちにできること」と題してご講演いただきました。大久保さんは1月1日に能登を襲った大地震発生直後から防災士会の方々と連携し、6日には石川県に9時間かけて物資を届けられたそうです。

その後も珠洲市の正院小学校の避難所で電気も水道も使えない中、避難者の方に寄り添い何か月にも渡り支援されています。避難所での支援経験から多くの課題などを写真や映像を交えたお話は、普段のニュースでは知り得ないことが多く驚きでした。復興もままならない中、追い打ちをかけたのが9月の豪雨災害です。能登の被災者の方々からは「神も仏もないのか」「もう心が折れた」という言葉を聞かされ、かける言葉が見つからなかったそうです。
日本各地で自然災害が多く発生

しています。「なぜ人は備えないのか」それは自分に都合の悪い情報を見無視、過小評価するからだそうです。確かに私も「自分は大丈夫だ」「この地域はないだろう」そんなことを思っていました。災害はいつどこでも起こり得るので、能登の地震では、家が壊れても近所の人が助け合い、多くの命を救った事実もあります。この講演を聞いて災害にあつたらどう対応するのか、普段からシミュレーションをしておくこと、ご近所の方々とコミュニケーションをとること、地域の防災力を高めていくこと、それらが極めて大切であると感じました。



▲大久保隆志さん

「あいとぴフォーラム」に参加して

池田 典子

9月7日(土)、隣保館において、講師の大沢真理さんによる「誰ひとり取り残さない世界をージェンダー平等がカギ」と題した講演会がオンラインで行われました。
東京大学名誉教授で経済学博士でもある大沢さんは、社会政策・労働市場のジェンダー不平等や福祉政策に関する研究で評価されており、国内外の学会で活躍し、ジェンダー平等の推進に尽力されている方です。

講演の中で、いま日本が抱える課題として男女平等・雇用・年金・貧困・少子高齢化などがあるが、世の中は日々進化しているにも関わらず日本の社会政策は「昭和時代そのまま」であることが問題とのこと。
要するに男性が社会に出て働き、女性が家庭を守るといった考え方が未だにあるということです。それでは何も変わらない、それどころか日本が抱える問題がいま以上に深刻化してしまう恐れがある、社会政策で決定権を持つ場において、女性も自分の意見を述べて、活躍できる場を増やしていくことも課題のひとつということ。講演の最後に大沢さんから、公の場で自分の意見を発言し、行動することは誰でも簡単にできるものではなく、その人が持つ能力を十分に発揮し、活躍するためにも人材を育てていくことが重要で、これは男女ともに共通するそうです。

今回この講演会に参加して、正直少し難しい部分もありましたが、互いを尊重して誰もが充実した毎日を送ることができる世の中になつて欲しいと思いました。

団体の紹介

更生保護女性会

天田 恵子



▲オンライン講演会の様子

更生保護とは、罪を犯した人や非行のある青少年が実社会で健全に更生できるように支援し、犯罪や再犯の予防を図る活動です。私たちは、女性としての立場から、誰もが安心して心豊かに生きられる明るい社会づくりを目指して活動しています。
具体的な活動としては、はにしな寮でのボランティアや街頭啓発活動(社会を明るくする運動)、視察研修などを保護司会と協同して行っています。また、更生保護女性会独自では、更生施設への食事作りや児童館でのボランティアなどを行っています。
更生保護の基本「明るい社会、つくりは、家庭や地域の身近なところから互いに気持ち良い挨拶をすることから始まります。皆さんで広めていきましょう。会員募集中です。